

千葉県産の地衣類 (4). 新産種等 4 種について

原 田 浩¹⁾・川 名 興²⁾・松 田 晃 子³⁾

¹⁾ 千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2

²⁾ 〒293-0012 千葉県富津市青木 908-4

³⁾ 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-29-13

要 旨 分布上注目値する地衣類 4 種が千葉県内において確認された。ヒモウメノキゴケ *Parmelia laevior* Nyl. は、冷温帯にごく普通に出現するが、今回千葉県内では初めて見つかった。キンブチゴケ *Pseudocyphellaria aurata* (Ach.) Vainio は西南日本に比較的まれに出現するが、県内からは清澄山に次いで館山市において生育が確認された。熱帯に広く分布する生葉上地衣のアオバゴケ *Strigula elegans* (Fée) Muell. Arg. は、国内では 4 箇所からの記録があるが、県内では清澄山に次いで御宿町で発見された。アサヒナサルオガセ *Usnea torquescens* Stirt. var. *asahinae* (Mot.) Asah. は、国内 4 番目の産地として、鋸南町で生育が確認された。

キーワード: 地衣類, フロラ, 千葉県, 房総半島, lichens, flora, Japan.

千葉県の地衣類相を明らかにする目的で、1988 年に千葉県立中央博物館総合研究『房総の地衣類誌』(当初は『房総の菌類誌』の一部として)を開始し、1997 年 6 月時点で 193 種が記録された(原田, 1993, 1994, 1995a, 1996; 原田ほか, 1996; 石橋・原田, 1994; 川名・原田, 1997)。しかし、痂状地衣の中には分類学的検討が充分になされていない分類群も数多いため、未同定の収集標本が現段階では多数残されている。また、調査地域が限られているために、実際には葉状地衣や樹状地衣の種が更に多数分布していることも予想される。そこで『房総の地衣類誌』を更に進めるために、中でも特に地衣類相が豊富と思われる南部を中心に調査を行ってきた。その結果、分布上注目値する 4 種の生育が最近確認されたので、ここに報告する。

材料と方法

収集した資料にさく葉等の処理を施し標本化した後、通常の形態観察と化学的検査(吉村, 1974)を行い同定した。なお、本報で引用された標本は全て千葉県立中央博物館(CBM)に所蔵されている。

結 果

1. *Parmelia laevior* Nyl. ヒモウメノキゴケ

本種は、ウメノキゴケ科に属する中形の葉状地衣で、地衣体裂片背面がくぼんで槌状になり、その縁に白色のほぼ円形の擬盃点が生じ、裂芽や小裂片を欠くことから、野外でも容易に判別できる。冷温帯ではごく普通にみられるが、今回が千葉県からの初めての報告となる。

生育が確認された場所は、県南部に位置する清澄山周辺の丘陵地である。森林内を流れる細流に沿った狭い稜線上の、比較的風通しがよく、木漏れ日が当たるアカメガシワの樹幹に着生していた。

ここ数年にわたって行ってきた県内各地の調査(原田, 1995a; 原田ほか, 1996; 石橋・原田, 1994; 川名・原田, 1997)では、本種は全く確認されなかったことから、県内ではかなりまれな存在と思われる。本県は全域が暖温帯に位置するため、本種の分布域からほとんど外れているのであろう。同様の分布を示す種として、本種に近縁のチヂレヒモウメノキゴケ *Parmelia pseudolaevior* Asah. をはじめ、イヌツメゴケ *Peltigera canina* (L.) Willd., トゲトコブシゴケ *Cetrelia braunsiana* (Muell. Arg.) W. Culb. et C. Culb. などが県南部の丘陵地から知られる(原田, 1996; 石橋・原田, 1994; 柴山, 1964)。

Specimen examined: JAPAN. Honshu. Chiba-ken, Awa-gun, Amatsu-kominato-machi, Kiyo-sumi-yama, 200–300 m alt., on bark of *Mallotus japonicus*, Harada 9246 (CBM-FL-288).

2. *Pseudocyphellaria aurata* (Ach.) Vainio キンブチゴケ

本種はヨロイゴケ科の葉状地衣で、髄層が黄色く、葉体背面の主に縁部に黄色の偽盃点を生じ、共生藻は緑藻類であることから、野外でも容易に判別できる。熱帯を中心に分布し、国内でも関東以西から知られるが比較的まれである。県内からの記録は、清澄山からの報告(柴山, 1964)が唯一で、それ以来生育が確認されていなかった。従って今回の発見が、県内におけ

る2番目の記録となる。

発見場所は、房総半島南端に近い館山市の神社である。境内には、クスノキなどが点在し、そのうち数本の樹幹に本種が着生していた。同樹幹には、やはり県内ではまれなコナカワラゴケ *Coccocarpia palmicola* (Spreng.) Arvidss. et Gall. も見られた。

Specimen examined: JAPAN. Honshu. Chiba-ken, Tateyama-shi, Daijingu, 30 m alt., on trunk of *Cinnamomum camphora*, Harada 16233 (CBM-FL-7290).

3. *Strigula elegans* (Fée) Muell. Arg. アオバゴケ

本種は、熱帯に広く分布する生葉上地衣である (Santesson, 1952)。国内では、千葉県産と神奈川県産の標本に基づきアオバゴケ *Strigula* sp. として朝比奈 (1931) によって報告されてからは、九州と小笠原が産地として追加されたに過ぎず (吉村, 1974; 原田, 1991; Harada, 1995b), 意外と報告例が少ない。千葉県内においては、朝比奈 (1931) による天津小湊町 (原文では“天津”) からの報告が唯一であったので、今回の御宿町からの記録は、60 数年ぶりの再発見にあたる。

千葉県内からは本種を含め生葉上地衣が3種知られるが、以下の特徴によって容易に区別できる。ヒノキノアオバゴケ *Fellhanera bouteillei* (Desmaz.) Vězda は青味を帯びた緑白色の地衣体上にクリーム色の裸子器を生ずる。ホルトノキゴケ *Porina coruscans* (Rehm) Sant. は褐色で極めて薄い地衣体上に暗褐色の被子器を有する。これらに対しアオバゴケは、淡緑色の地衣体とそれに大部分埋もれた黒色の被子器によって特徴付けられる。

Specimen examined: JAPAN. Honshu. Chiba-ken, Isumi-gun, Onjuku-machi, Saimyo-ji Temple, 10 m alt., on leaves of evergreen hardwood, Matsushita 822 (CBM-FL-6421).

4. *Usnea torquescens* Stirt. var. *asahinae* (Mot.)

Asah. アサヒナサルオガセ

本種の地衣体は、根元付近で分かれた分枝が伸張り仮軸を形成し、これにほぼ直角につく小枝を多数生ずる点で、亜高山帯によく見られるナガサルオガセ *Usnea longissima* Ach. に似る。しかし、本種では仮軸に皮層を有するのに対し、後者では皮層が脱落する。皮層を有する点では、フジサルオガセ *U. montis-fuji* Motyka とニセフジサルオガセ *U. pseudomontis-fuji* Asah. に似るが、本種は裂芽様の小棘枝を多数生ずるので明らかに異なる。本種は国内では高尾山 (東京都)・富士山 (山梨県)・高野山 (和歌山県) の3箇所から記録がある (Asahina, 1956) に過ぎず、今回の記録は4番目となる。

生育が確認された場所は、千葉県南部、海岸より約4.5 km 内陸の丘陵部にある神社である。境内を取り囲むスギ数本のうち、1本 (胸高直径約80 cm) の樹幹にのみ生育していた。根元から50 cm 位から2 m 位までの間に本種は着生しており、半日陰で、風通しが良い場所と見受けられた。また同樹幹には、この他にウメノキゴケ *Parmotrema tinctorum* (Nyl.) Hale・トゲウメノキゴケ *Parmelinopsis minarum* (Vainio) Elix et Hale・コナヒメウメノキゴケ *P. spumosa* (Asah.) Elix et Hale・コフキデリナリア *Dirinaria applanata* (Fée) Awas.・レブラゴケ *Lepraria* sp. など着生していた。

本種の主枝は、基部付近では極端に角張る一方で、先端部付近ではほとんど丸いとされる (Asahina, 1956)。千葉県産の標本は、基部付近での角張り方が必ずしも顕著でない点を除くと、本種に特徴的な形態を示す。また、本種の地衣体は長さ70 cm 程に達することがある (Asahina, 1956) とされるが、千葉県産のものでは10 cm 程度である。このため、ナガサルオガセのように長く垂れ下がる姿は、今回は見られなかった。

Specimens examined: JAPAN. Honshu. Chiba-ken, Kyonan-machi, Ichii-bara, Hachiman Shrine, on trunk of *Cryptomeria japonica*, Kawana 96080413 & 97030102 (CBM-FL-9064 & 9065).

引用文献

- 朝比奈泰彦. 1931. 日本地衣フローラの資料 (I). 94 pp., 23 pls. 斎藤報恩会, 仙台.
- Asahina, Y. 1956. Lichens of Japan. III. Genus *Usnea*. 129 pp., 24 pls. Research Institute for Natural Resources, Tokyo.
- 原田 浩. 1991. 小笠原諸島の地衣類相. In 東京都立大学小笠原研究委員会 (編), 第2次小笠原諸島自然環境現況調査報告書, pp. 24-27. 東京都立大学, 東京.
- 原田 浩. 1993. 千葉県産の地衣類 (I). 特筆すべき3種について. *Hikobia* 11: 235-238.
- 原田 浩. 1994. 千葉県産地衣類のチェックリスト. 千葉中央博自然誌研究報告 3(1): 89-96.
- 原田 浩. 1995a. 千葉市の地衣類相 (III). 千葉市産地衣類目録. In 千葉自然環境調査会 (編), 千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書 III, pp. 148-155. 千葉自然環境調査会, 千葉.
- Harada, H. 1995b. *Strigula nipponica* Harada sp. nov. (Lichenes, Strigulaceae) from Chiba-ken, central Japan. *Nova Hedwigia* 60(3-4): 487-491.
- 原田 浩. 1996 ("1995"). 千葉県産の地衣類 (2). 新産種等8種. 千葉中央博自然誌研究報告特別号 (2): 157-160.
- 原田 浩・高宮 宏・松下晃子. 1996 ("1995"). 千葉県産の地衣類 (3). 東金市の地衣類. 千葉中央博自然誌研究報告特別号 (2): 161-166.
- 石橋みゆき・原田 浩. 1994. 大福山周辺の地衣類. In 市原市自然環境実態調査団 (編), 市原市自然環境実態調査報告書, pp. 265-270. 市原市環境部環境保全課, 市原市.

川名 興・原田 浩. 1997. 袖ヶ浦市の地衣類相. *In* 袖ヶ浦市史基礎資料調査会報告書 11, 袖ヶ浦市の植物, pp. 65-76. 袖ヶ浦市教育委員会, 袖ヶ浦市.

Santesson, R. 1952. Follicolous lichens I. *Symb. Bot. Upsal.* 12(1): 1-590.

柴山圭右. 1964. 千葉県産地衣類. 千葉大学理学部銚子臨海研究室研究報告 (6): 38-42.

吉村 庸. 1974. 原色日本地衣植物図鑑. 349 pp., 48 pls. 保育社, 大阪.

(1997 年 9 月 17 日受理)

Lichens of Chiba-ken, Central Japan (4). Four Noteworthy Species

Hiroshi Harada¹⁾, Takashi Kawana²⁾
and Akiko Matsuda³⁾

¹⁾ Natural History Museum and Institute, Chiba
955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba, 260-8682 Japan

²⁾ Aoki 908-4, Futtsu-shi, Chiba, 293-0012 Japan

³⁾ Nishi-shinjuku 4-29-13, Shinjuku-ku,
Tokyo, 160-0023 Japan

Four noteworthy species of lichens are reported from Chiba-ken, central Japan. *Parmelia laevior* Nyl. is new for Chiba. *Pseudocyphellaria aurata* (Ach.) Vainio and *Strigula elegans* (Fée) Muell. Arg. are recorded at the second time for Chiba. *Usnea torquescens* Stirt. var. *asahinae* (Mot.) Asah. was newly found in Chiba as the fourth locality in Japan.